

1. 先の大戦の空襲で、神田神保町付近が何故に焼夷弾攻撃を受けなかったか

このあたりを中心とした書店街は戦災に遭ってません、まわりはほとんど焼け野原になったのですから不思議といえば不思議な話ですが、白系ロシア人セルゲイ・エリセーエフがその恩人だという話があります。彼はベルリン大学で日本語を学び、東京大学で勉強をしてパリで日本学を打ち立てた人として知られています。

また夏目漱石の門下生のひとりでもあり、後にハーバード大学で東洋学者として著名なライシャワーらに教えたこともあります。

第二次大戦が激しくなり、東京空襲がはじまると、彼がアメリカ陸軍元帥のマッカーサーに「神保町界限は空襲から外すべきだ」と進言したというのです。

この街には世界でもほかに類を見ない貴重な資料本が集積していることを熟知していた彼なら、ありえないことではないだろう、と司馬遼太郎は著書の中で書いているそうです。

それにしても、ギリギリの距離で中西屋書店があった、あの三角地を外して爆撃できたとは、恐るべき精度だったのですね、偶然だったとも思えますが。

また、あんなに爆撃で焼けた小川町・錦町でも電機学校を始め小川小学校から各大学までの学校だけは、ギリギリの距離で焼けずに残っていました、信じ難いですが、やはり偶然ではなく配慮されていたのだと思います。約70年前にあんなことができるシステム(情報と技術)を持っていたとは、まったく驚きです。

2. 神田小川町1丁目 小川町交差点角の「カメラの日米商会」

私の住んでいたのは神田小川町1丁目の小川町交差点角で「カメラの日米商会」といいました。戦前は京橋に本店があり、銀座や神田一帯の各町に支店のあつた三栄堂カメラの小川町店でした。戦後はバラバラに再開し、小川町店は日比谷の米軍司令部基地に最も近く再開し、当初は米軍関係のDPE(現像・焼付け・引き伸ばし)客の方が多かったので日米商会を屋号としたそうです。カメラ店組合のまとめ役でしたので、小川町の裏通りにカメラ会館なるものが建ちました。米兵のピストル強盗に入られたりもしました。店頭での一般客相手の商売はたいした額ではありませんでしたが、昔、昭和天皇がまだ皇太子殿下であったとき、陸軍の観閲式場で区の依頼で行進の取材をしていた大叔父が、殿下の近くまで進んだ時に、お持ちになっていたカメラが不調であるのに気がつき、予備にしていたライカをその場で献上したのが縁で御用達となっていた宮内庁を始め、日本に無い特殊フィルム・特殊印画紙や写真光学機材を海外から直接輸入していた関係で電機大・明大・日大・中大・専大・法大・東大・農大・工学院・国学院・国土館・拓大・共立女子・気象台・キリスト教大・天文台・宇宙航空研・通信総研

その他各官庁・役所・学校等と地の利を生かしての、外交(当時、営業とは言わなかった)が主でした。とりわけ、最も近かった電機大には重宝がられて父親が毎日のように通っていました、ほとんどの教職員方とは顔見知りで声を掛けていただけており、親父の後を追って付いて行っていたので私も子供の頃から学校に出入りしていました。

10階建てビルになってからも、後を継いだ従兄弟のために84歳迄働いた父親が辞めた後は、商売下手で、外交商売が不調になり、更に亡くなった頃からは、急速にデジカメへの移行が進み、光学写真材料やフィルム・カメラの需要が落ち込み、現店主が諦めて店を地階に移し細々と続けてはおりますが、1階から上を貸しビルにしてしまいました。これも時の流れですが、残念です。

米国のコダック社をはじめ、フィルム・メーカーがほとんど、止めてしまった程ですから仕方ありません。